Himeji City Science Museum
姫路科学館 サイエンス トピック
May 15, 2023, No. 586

科学の眼
まなこ

発行：姫路科学館（〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話：079-267-3001）
https://www.city.himeji.lg.jp/atom/

生物シリーズ

身近にいるよ、日本の国鳥

夢前川のキジ

Japanese green pheasant on the bank of Yumesaki river

姫路科学館　学芸・普及担当　徳重 哲哉

■夢前川のキジの観察記録

初めて野生のキジを見たのは 2019 年３月２６日に夢前川と菅生川の合流付近で、草むらから飛んだ雄でした。２回目は 2019 年１２月３１日に蒲田橋の下にいた雌です。2020 年３月２０日に新幹線の南側で雄を見て、結構いるものだと思いました。その後、新幹線から才崎橋にかけて河川改修が始まり、生息地が失われると考えて写真で記録を始めました。遭遇回数の多さから、2022 年４月以降は姫路バイパスから才崎橋にかけてをメインに観察を続けています。図１は 2022 年までの記録ですが、2023 年は１月２１日から観察しています。また、姫新線より上流の夢前川、支流の菅生川のどちらにもキジがいると聞いています。

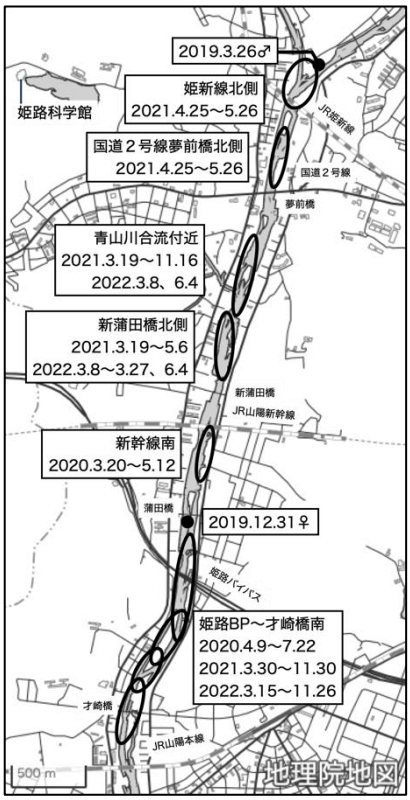

図１　夢前川でのキジの観察記録

2019 年（●２箇所）から 2022 年までの結果。楕円は雄のおよその縄張りの範囲を表す。夢前橋と新蒲田橋の間は 2020 年には見落とした（観察していない）エリア。

■キジの姿

雄は頭から腹の羽毛が黒く、深緑色の金属光沢を持ち、頭部は角度によって紫色に輝きます。後頭部の左右に耳のようにも見える小さな冠羽があります。翼と腰は灰緑色で、風切り羽と長い尾羽は薄い茶色に太く濃い横紋が入ります。雄の目のまわりには赤い肉垂があり、繁殖期には横にしたハート型に大きくなり目立ちます。特に、メスが近くにいる時や他のオスと争う時には顔を覆うほど大きくなります。

雌は体を覆う羽毛は薄い黄褐色に褐色の紋が入り、尾羽はオスと同じように太い横紋が

あります。雌は草むらに紛れ天敵に襲われにくいように地味な柄と色なのに対し雄が派手なのは、性的アピールの他に、天敵が近づいたときに雌やヒナを守るために、自分の方に気を引く意味合いもあるようです。

キジの全長は雄が約 80cm、雌が約 60cm です。雌は雄より小柄で尾羽も短く、体色も全く違うため、雄を親、雌を子と思っている人もいます(夢前川沿いの散歩の人の会話より)。体の大きさに対して翼が短いため長距離を飛ぶのは好きではなく、川を渡る時も、浅瀬であれば歩いて渡ります。外敵が近づいたり驚いた時には「コッコー、コッコー」と鳴きながら飛び去ります。一度に数 100m くらい飛ぶことはあります。脚は発達していて、川岸の急な斜面でも登り降りし、平地では時速 30km 以上で走ります。

■母衣(ほろ)打ち

繁殖期の３月から６月頃まで、雄は縄張りを持ちます（図１の楕円参照)。この時期は夜明け頃から９時頃までの間「ケーッ、ケー」と大きく鳴きながら羽ばたく「母衣打ち」をして縄張りを主張します（写真１)。鳴く前に２回、「ケーッ、ケー」と鳴くのと同時に２秒弱の間に９回も羽ばたくので、近くにいると空気の振動が伝わってきます。

隣接する縄張りから別の雄が侵入すると、尾羽を広げて自分の優位を誇示します。相手が逃げないと睨み合いの末に喧嘩になり、空中で蹴り合うこともあります（写真２)。

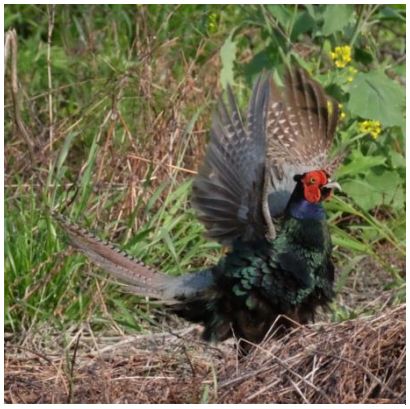

写真１　雄のキジの母衣打ち

写真２　雄同士のケンカ

■キジの結婚事情

雄雌が一緒にいる姿は一年中見ますが、雌は特定の雄を選んで番(つがい)になるのではないようです。ある朝、一番強い雄が４羽の雌を連れていたのに、夕方には雌が３羽に減って隣の雄が雌を１羽連れていて、次の日にはさらに１羽減って…という具合なので、雌は雄の縄張りを渡り歩いているようです。

雄は雌に求愛する時にも尾羽を広げてアピールします（写真３)。ところが、ほとんどの場合は交尾には至らず、雌が雄を飛び越えて走り去ることもあります。

写真３　キジの雄（右）と雌（左）
雄が尾羽を広げて雌に求愛しているようす。相手にされないことが多いのが哀れです。

■キジの幼鳥

夢前川ではまだキジの巣や孵化したてのヒナを見たことはありませんが、６月下旬頃には、親と一緒にいる幼鳥を見るようになります。2020 年は１羽、2021 年は２羽、2022 年は一度に３羽連れた姿を見かけました。産卵数６～１２個と比べると、成鳥まで生き延びるのは難しいことがわかります。2023 年はどうなるのか、これからも見守っていきます。